

## 装 備 報 告

今回の遠征に関する装備の面において、最も熟考を要したのは言うまでもなく、どのカヌーを使うかであった。それが折畳み式であり、かなりの積載能力のあるものでなければいけないという点から、我々は使用するカヌーをカナディアンタイプに決定し、当初は練習においてアリー（ノルウェー製）のカヌーを使用した。ところがこのカヌーは本来静水に適しており、流れの速い川を下ると数々の問題が生じた。このカヌーを構成しているアルミニウム製のフレームが流れの中で唐突に外れたり、時にはこれが歪曲して折れてしまうことなどである。タリム川には急流がないと予想されたが、万一に備えて使用カヌーの変更を考え、次にグラブナーのアウトサイド（オーストリア製）に注目した。これは3つの気室に空気を注入することによって構成されるもので、以前のような問題は解消され、なおかつ多少の衝撃では破れない頑丈なゴム製であったので、長時間における乱暴な使用にも耐えうるものであると判断し、このカヌーを使用することに決定した。操作性にも問題はなく、底に付いた弁を開くことによって、瀬にさしかかっても水が溜って転覆する恐れはなかった。実際にはタリム川でこの弁は閉じたままで使用した。さて、遠征中、気室に小さな穴が開いて空気もれをおこしたことが4回ほどあったが、穴の上に接着剤でゴムを貼って修理した。原因は小枝が突き刺さったためと思われる。長期間の活動にもかかわらず、この程度の故障ですんだのは、やはりゴム製のためだろう。

カヌーには最大400kg（乗員を含む）の積載能力があるが、遠征中の最大積載量は1艇当たり100～150kg（人間を除く）ほどであった。

出発前に問題になった「ライフベストが必要かどうか」は、必要なかったと答えてよいだろう。仮に転覆したとしても危険な箇所はなかったので、暑さにまいった隊員達は早くも第1日目の航行でこれを脱ぎ、座布団がわりにして尻にしていた。

装備の中で予想以上に重宝したものはタープ（天幕）であった。蚊のいない夜は、テントの中よりもこれの下の方が星を眺めながら快適に眠ることができた。

無線機、浄水器に関しては必要なかった。無線機は当然あるにこしたことはないが、出発直後に起こった地元公安局とのトラブルにより、使用を断念した。浄水器の使用は大いなる徒労であり、使用を続けると心身共にまいってしまうと思われたので、航行1週間ほどで飲料水の確保の方法を変更した。（詳細は食糧報告参照）

最後に装備援助していただいた方々にお礼申し上げます。

### <団体装備表>

| 品 目        | 個 数 | 備 考          |
|------------|-----|--------------|
| カナディアン・カヌー | 3   | グラブナー・アウトサイド |
| シングルパドル    | 9   | 予備3本         |
| ツウィンパドル    | 2   | 使用せず。        |
| ポンプ        | 2   |              |

|            |     |                                             |
|------------|-----|---------------------------------------------|
| ライフベスト     | 6   | 座布団がわりに使用。                                  |
| カヌー修理道具セット | 1   | ゴム布，接着剤，金づち，ヤスリ                             |
| 背負子        | 3   | カヌー運搬用                                      |
| 細引き        | 3   | 5mm×15m カヌーに装着。                             |
| スローロープ     | 3   | 使用せず。                                       |
| コンパス       | 2   | 歩行時に使用。                                     |
| 双眼鏡        | 2   | 航行隊1，補給隊1                                   |
| 防水袋        | 5   | 装備、食糧パッキング用                                 |
| 無線機        | 2   | 1COM，使用バンドは7MHz                             |
| 無線機用バッテリー  | 4   | 12V                                         |
| アンテナ       | 2   | 7MHz 専用                                     |
| 防水ケース      | 2   | 無線機用                                        |
| 測定器        | 1   | 無線機用，使用せず。                                  |
| 電圧変換器      | 1   | 使用せず。                                       |
| マップメーター    | 1   |                                             |
| 地図セット      | 2   | 航行隊1，補給隊1（10万国，100万国1枚ずつ）<br>中国側が用意。        |
| カメラ        | 3   | ニコン・ニューFM2，2台，ミニタ・ウエザーマチック1台                |
| フィルム       | 160 | 詳細は撮影報告参照。                                  |
| ビデオ        | 2   | ソニーハンディカム，防水パック付き                           |
| ビデオテープ     | 70  | 90分テープ                                      |
| ビデオバッテリー   | 20  |                                             |
| バッテリー充電器   | 2   | ビデオ用                                        |
| テント        | 5   | 航行隊2（モンベル・ムーンライト4人用）<br>補給隊3（中国側が用意）        |
| タープ（天幕）    | 1   | モンベル                                        |
| ペグ         | 6   | タープ用                                        |
| ロープ        | 1   | 4mm×20m                                     |
| ウレタンシート    | 4   |                                             |
| アルミニウムボトル  | 14  | 1.5L-11，1L-4                                |
| ストーブ       | 3   | ホエーブス，ガソリン使用。航行隊2，補給隊1                      |
| コップエルセット   | 2   | エバニユのM、やや小さかった。補給隊は中国側の<br>用意したなべやフライパンを使用。 |
| 食器セット      | 7   |                                             |
| スプーン       | 7   |                                             |
| はし         | 数本  | 中国側が用意。                                     |
| 金盆         | 2   | 風防として使用。                                    |
| まないた       | 2   | 中国側が用意，航行隊1，補給隊1                            |

|           |     |                     |
|-----------|-----|---------------------|
| 玉杓        | 2   |                     |
| 蠟燭        | 20  | 日暮れが遅いのでほとんど使用せず。   |
| ロールペーパー   | 多   | 中国側が用意。             |
| 折畳みポリタン   | 17  | 5L-2, 10L-1, 20L-14 |
| 浄水器       | 6   | 砂が詰まってくると非常な労力を使う。  |
| 医療セット     | 2   | 航行隊1, 補給隊1          |
| 裁縫道具      | 1   |                     |
| 石けん       | 数コ  |                     |
| シャンプー     | 数コ  |                     |
| ボディーシャンプー | 数コ  |                     |
| 洗剤        | 数コ  | 洗濯用。中国側が用意。         |
| ガソリン      | 60L |                     |
| ビニール袋     | 多   |                     |

<個人装備>

| 品 目        | 個 数 | 備 考                     |
|------------|-----|-------------------------|
| シュラフ       | 1   | 前半は使わない予定だったが、実際はほとんど使用 |
| シュラフカバー    | 1   | 蚊対策に有効。                 |
| エアマット      | 1   |                         |
| 運動靴又は      | 1   | 歩行時以外はほとんど必要なく、航行中は裸足。  |
| トレッキングシューズ |     |                         |
| ゴム草履       | 1   | 陸に上がった際非常に重宝した。         |
| 防寒衣        | 1   | 使用せず。                   |
| シーマジャンパー   | 1   | 雨天時又は気温の低い日に使用。         |
| ライター       | 1   |                         |
| 細引き        | 1   |                         |
| ナイフ        | 1   |                         |
| Tシャツ       | 数枚  |                         |
| 靴下         | 数枚  |                         |
| 下着         | 数枚  |                         |
| タオル        | 1   |                         |
| 洗面道具       | 1   |                         |
| ポリタン       | 1   | 2L                      |
| 軍手         | 1   | ほとんど使用せず。               |
| ヘッドランプ     | 1   | 日暮れが遅いのでほとんど使用せず。       |

|       |       |                   |
|-------|-------|-------------------|
| 電池    | 1 1 0 | 単 3 型。個数は全隊員の合計数。 |
| 筆記具   | 1     |                   |
| サングラス | 1     | ほとんど使用せず          |
| 防水袋   | 1     | 個人装備パッキング用        |
| パスポート | 1     |                   |

(三浦 智)

## 輸送報告

今回の輸送は、事前に中国へ別送するのと手荷物として持ち込むという2つの方法を選った。というのは、中国では荷物が紛失する恐れがあるので、荷物の重要度に応じて別送と手荷物に分けたのである。

別送の場合、当然のことながら、しっかり梱包する必要がある。高岡ダンボールから特注で提供していただいたダンボールは、一般のものよりも2倍近い厚さがあり、強度は十分だった。実際、中国到着後も損傷は特に見られなかった。荷物は概ねこのダンボール箱の中に入れてガムテープで蓋をしたが、パドルのような長物はダンボールをぐるぐるにまいてガムテープで止めた。梱包数は計10個、総重量は268kgに達した。

中国へ荷物を発送する場合、2つの方法がある。今回の場合なら、船で上海あるいは天津へまず送り、そこで税関の検査を受け、それから列車でウルムチへ運ぶ（ウルムチから出発点までは新疆大自然旅行社が輸送する）方法、それと飛行機で北京あるいは上海を経由してウルムチへ運び、ウルムチで税関の検査を受けるという2つの方法だ。前者の場合費用はかなり安い、ウルムチに到着するのに数か月から1年かかり、また紛失の可能性がかなり高い。後者の場合、費用は割高になるが、1週間から10日ほどでウルムチに到着することができ、また紛失の可能性が低い。今回は後者の方法を選った。

飛行機の別送の場合、別送個荷物という形をとると、日本から中国へ最初に到着する都市（日本の運送会社の駐在所がある都市）間に限って料金が半額になる。これは渡航の際に購入したエアチケットとパスポートのコピーがあれば適用されるものだ。私達は大阪～上海～ウルムチのエアチケットを購入していたが、上海に駐在所（郵船航空）がなかったので、北京経由扱いにいただいた。費用は大阪～北京、1kg当たり310円、北京～ウルムチ、1kg当たり8元（約200円）であった。

税関を無事通関するためには、PROFORMA INVOICEとPAKING LISTという2つの英文書類が必要だ。PROFORMA INVOICEというのは全荷物の品目、個数、価格を記したものの、PAKING LISTというのはそれぞれの箱の重量と中身の品目を記したものである。税関ではこの2つの書類に記されている荷物と実際に送られてきた荷物が同じであるか否かを調べるのだ。しかし実際には、この書類があれば、箱は1部しか開けられずに通関してしまうそう

だ。  
手荷物には主にカヌー、無線機、カメラといった紛失しては困るものばかりにした。これらはダンボール箱に梱包せずに、背負子やザックに入れて運んだ。飛行機の場合、1人20kg以内なら無料だが、それを超えると超過料金を取られる。今回はかなり重量オー

バーしたので、相応の料金を支払わなければならなかった。

帰国の際の返送は全て別送にした。往路とは全く逆にウルムチ～北京～大阪というルートで飛行機にて輸送した。料金は日本発よりかなり安く、ウルムチ～大阪、1kg当たり17.18元(約430円)だった。ただこの時、PROFORMA INVOICEとPAKKING LISTを用意していなかったので、大阪に到着した時、倉庫代を徴収され(書類検査を受けることができずに、数日間倉庫に保管されていたため)、また全荷物の検査を受けなければならなかった。

中国ではよく荷物が紛失すると聞くが、今回往復の輸送の中で一部個人装備が紛失しただけで済んだのは幸いであった。反面、カヌーのポンプを忘れるという初歩的な失敗をしてしまったことは、反省しなければならない。

最後に、この輸送でお世話になった方々にお礼申し上げます。

(山田 勅之)

## 撮影報告

使用したカメラはニコンのニューFM2が2台とミノルタの完全防水型のコンパクトカメラ、ウェザーマチックの計3台であった。

ニコンにはそれぞれ35mm～70mmのズームレンズと80mm～200mmのズームレンズを取り付け、当初航行隊と補給隊で1台ずつ使っていたが、補給隊のカメラも早々に航行隊に回し、ほぼ全行程において3台のカメラを航行隊が使用することになった。

コンパクトカメラは常に土山が使い、ネガフィルムによるスナップ撮影を行った。一眼レフの2台は三浦と佐藤が使い、ポジフィルムによって美しい風景を追い求めた。

ビデオはソニーのハンディカム8mmビデオを防水パックに入れて使った。ビデオは常に航行隊が1台、補給隊が1台を使い、主に山本が撮影を行った。

航行隊が使った一眼レフカメラは、常に防水袋に入れておき、必要な時に袋から取り出して使い、撮影が終わると袋に戻すという習慣にした。多い日は、50回ほどこの動作を繰り返すことになったが、水と塵埃を防ぐにはこの方法しかなかった。

言うまでもなくウイグル族は絶好の被写体だった。岸に立つ彼らをカヌーの上からねらい、これにカヌーも一緒に写るようにした。砂丘を背景にカヌーを撮った物も多い。カヌーは出来るだけ前方から写し、隊員の表情が明らかになるよう心がけた。動物とカヌーと一緒に写した物も多い。タリム川流域には多くの動物が生息しており、牛、馬、ロバ、羊、山羊がほとんどであった。これらの他にもウイグル族の操るカヌーが絶好の被写体となった。地平線に沈む大きな夕日や砂丘の上にぽっかりと浮かんだ満月にも固唾を飲みながらシャッターを切った。

フィルムは多めに持って行ったので、失敗のないようシャッターを何度も切ることができた。特に夕日は刻一刻とその様相をかえるので、ひとたびカメラを構えとなかなか手放すことができずに、50枚ほど一気に撮ったこともしばしばであった。全てカラーを使い、ネガ40、ポジ60本ほどを使った。ネガはフジカラーの400を使い、ポジはフジクロームとエクタクロームの100と400を併用した。

撮影後の記録に関していうと、場所と日付をメモしていなかったのは反省しなければならない。これがために、朝日新聞社へ現地よりフィルムを送ったのはよいが、記事作成に

多大な迷惑をかけてしまった。

最後に、撮影機材の貸与、援助をしていただいた方々にお礼申し上げます。

(三浦 智)

## 医療報告

遠征実施前に、全員が破傷風とA型肝炎の予防摂取を受け、また高槻市のうえだ下田部病院の山口研一郎氏のご好意で、医療講習会と健康診断を受けて、遠征に臨んだ。

遠征中、病気といえるものは下痢だけだった。特に佐藤と山本は当初慢性の下痢が続いた。慣れない水や食事による「旅行者下痢」であったと思われるが、主にビオフェルミン止瀉薬を使用し、症状の重い時にロペミンを服用するようにした。しかし後半になると、慣れのせいか下痢を起こす者はいなくなった。

航行中は日中の気温が40度以上にも上り、そのために暑さによる頭痛を起こしたり、疲労が重なるなどして少し体調を崩すこともあった。数回、頭痛薬や精神安定剤を服用する者もいたが、いずれも大したこともなく、普通はビタミン剤を服用する程度だった。

ケガに関しては、歩行中に山田、山本と中国側協力隊員の1人がまめを作ったが、これも患部にバンドエイドを貼ったり、テーピングを巻いたりする程度だった。

最も多く使用した薬は、かゆみ止め、虫除けと殺虫剤であった。これは野営地に蚊がたくさんいたためだが、使用量の割りには効果のほどは芳しくなかった。

私自身、専門的な医学知識を持っているわけではなく、やはり各自常に注意を払っていたため、大事をまぬがれたのだろう。

最後に医療に関してご協力していただいた方々、並びに製薬会社にお礼申し上げます。

## <医療品リスト>

| 薬 効    | 頻度 | 薬 品 名     | 数 量  | 備 考           |
|--------|----|-----------|------|---------------|
| 感冒薬    | ○  | パイロンAカプセル | 150錠 |               |
| 止瀉薬    | ○  | ビオフェルミン   | 240錠 |               |
|        | △  | ロペミン      | 200錠 |               |
| 胃腸薬    | △  | 武田漢方胃腸薬   | 300錠 | 整腸            |
|        | ×  | ブスコパン     | 100錠 | 胃痛            |
| 解熱・鎮痛剤 | ○  | バファリン     | 300錠 |               |
| 精神安定剤  | ○  | コントロール    | 50錠  |               |
| ビタミン剤  | ○  | 新ポポンS錠    | 120錠 | 総合            |
|        | ◎  | シナールS錠    | 300錠 | ビタミンC         |
|        | ○  | QPコーワ     | 300錠 | 滋養強壮          |
| のど飴    | ◎  | トローチ      | 50錠  |               |
| 抗生物質   | △  | アクロマイシンV  | 200錠 | 発熱、腹痛、嘔吐を伴う下痢 |



|          |   |          |      |              |
|----------|---|----------|------|--------------|
| 火傷・切り傷薬  | × | ケフレックス   | 200錠 | 各種化膿性疾患、肺炎など |
| 筋肉痛薬     | △ | メンターム    | 4コ   |              |
| 目薬       | ○ | サロンパス    | 100枚 |              |
| 消毒薬      | △ | マイティア    | 5本   |              |
| 化膿止め（軟膏） | △ | オキシドール   | 4本   |              |
| 湿布・皮膚炎   | × | クロロマイセチン | 4本   |              |
| 薬用リップ    | ○ | リンデロンV・G | 6本   |              |
| 皮膚栄養剤    | ○ | リップクリーム  | 15本  |              |
| 虫除け      | △ |          | 5コ   |              |
|          | ◎ | ウナ虫除け    | 20コ  |              |
|          | ◎ | 蚊取り線香    | 300巻 |              |
| 殺虫剤      | ◎ | キンチョール   | 20本  |              |
| かゆみ止め    | ◎ | ウナコーワ    | 10本  |              |

# <衛生材料>

| 品 目 | 包帯  | はさみ | ガーゼ | 体温計 | 爪切り | ピンセット | テーピング | バンドエイド |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|--------|
| 数 量 | 10巻 | 2本  | 数枚  | 2本  | 2コ  | 2本    | 7巻    | 多数     |
| 頻 度 | ×   | △   | ×   | ×   | ○   | ×     | △     | ○      |

注) ◎ よく使用した  
○ 使用した

△ あまり使用しなかった  
× 全く使用しなかった

(土山 貴弘)

## 食糧報告

日本国内で調達し、中国へ持って行く食糧は事前の中国側との協議から、航行中に干上がってしまう「ワジ（歩行区間）」の区間分を用意することだった。用意した食糧は、インスタントラーメン、ジフィーズ、レトルトカレー、カロリーメイトであった。このように、持って行く食糧を決定することは別に困難ではなかった。しかしながら、これらの食糧を使用する所が先程も書いたようにワジなので、重量面に関して困難が生じてきた。当初、中国側との交渉時点では、ラクダ6頭を用意することになっていたが、現地住民と中国側との交渉で最終的には馬車1台（積載重量200kg）になった。積載重量から割り出された水と食糧の量を元に、人数を5名とせざるをえなかった。水に関していうと、積載した水は100L、1日1人当たり約5L（料理使用分を含む）で、カヌー航行中に吸収する水分（後述）とは比較にならないくらい摂取した。このことは、あらかじめ予想

できたことであるので、別に問題はなかった。このワジ内で池のように溜っているところは全て塩水なので、井戸を掘る以外に真水を確保するには、数少ない人家を捜し当てて、そこで井戸水を分けてもらうしか方法はない。しかし幸いにも、そうして得た水は馬の飲み水に使用しただけで、人間は最初に積んだ水だけで事足りた。

カヌー航行時の食糧は、基本的に中国側が用意をし、梅干しや先に記述した日本からの食糧は補助目的のために使用した。

主食としては米（ばさばさしている）とうどん（外見はきしめんのようであるがこしはない）を使用した。副食に関して言うと、特徴が2つあった。1つは、中国の食習慣のため、にんにくを加える料理が多いということである。そして2つ目は、使用する油がひまわり油を使用することである。これは初めて食する人には、慣れないせいか下痢を起こしてしまう。

メニューのパターンは、ほぼ毎日一緒であったが、栄養面では野菜（ピーマン、トマトナスビ、キャベツ、じゃがいも、たまねぎ、その他中国野菜）、肉（豚肉や牛肉のかんづめやビンづめ、生きた羊、山羊や鶏）などバランスの取れたメニューであった。しかし、このことは補給地点で十分な補給を受けた上で成立することである。600km無補給区間では、新鮮な野菜や肉が不足がちになり、流域の村落で食糧の買い出しをしなければならなかった。一般的にウイグル族の畑は川のすぐそばに位置し増水のために、肥えた土や作物が流されることがあるそうで、この時もこのような状況の後であり、小さな玉葱を数個手に入れるのが精一杯であった。しかし漢民族からの場合は、割合豊富な野菜を手に入れることができた。動物性たんぱく質（肉類）の補給は流域の村落で放牧されている羊や山羊を1頭40元（約1,000円）で割合簡単に買い入れることができ、それをさばいた（中国人が）後に、ゆでて塩をつけて食した。

出発前に1番気に掛けていた飲料水の面では、水面であるせいであろうか、個人差はあるが、行動中はあまり水を口にしなかった。しかしながら、1日の行動が終了して陸に上がると、その日に必要な水分を全て補給してしまうような勢いで水が喉を通る。量にして約2L（料理使用分を含む）ぐらいであった。なお、飲料水はほとんど粉末ジュース（NCAA）を入れて飲用した。

水の確保の方法は、最初日本から持参した浄水器（手動式）を使用していたが、浄水された水の量とそれに必要な仕事量があまりに割があわないので、途中から水を容器に貯めて、1～2時間そのままにしておき、砂を沈殿させてから水を沸騰させるという方法を採用した。

最後に、食糧に関して協力して下さった方々にお礼申し上げます。



<メニュー>

| 航 行 時 |                                                                                                                        |                                                       |                                                                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 朝 食                                                                                                                    | 昼 食                                                   | 夕 食                                                                                                                                                  |
| メニュー  | うどん<br>インスタントラーメン<br>春雨ぞうすい<br>やきめし<br>茶                                                                               | ビスケット<br>すいか<br>ハミウリ<br>ジャム<br>果物のびんずめ<br>スポーツ飲料<br>茶 | 青椒肉絲<br>東瓜煮<br>トマトと卵の炒めもの<br>トマトとキャベツの炒めもの<br>ナスビとピーマンの炒めもの<br>ナスビの中華風あえ<br>東瓜煮<br>羊肉煮<br>羊のスープ<br>じゃがいもの細切りの炒めもの<br>ごはん<br>梅干し<br>茶                 |
| 備考    | 普通はうどんのみ。<br>補給地点ではうどんとも<br>う1品。<br>春雨入りぞうすいややき<br>めしは前日の夕食の残り<br>を使う。<br>600km無補給地点で<br>はほとんどインスタントラーメン。<br>茶はジャスミン茶。 | ジャムはあまり<br>使用しなかった<br>茶は朝の残り。                         | いつも3～4品。600km無補<br>給区間では2～3品に減る。唯一<br>の日本食の梅干しは私達には、大<br>変おいしく感じられたが、中国人<br>には個人差があった。<br>茶は朝と同じくジャスミン茶。<br>東瓜とは外見はかぼちゃのようだ<br>が、中身と味はダイコンに似てい<br>る。 |

| 歩 行 時 |                           |                                |                       |
|-------|---------------------------|--------------------------------|-----------------------|
|       | 朝 食                       | 昼 食                            | 夕 食                   |
| メニュー  | インスタントラーメン<br>スパゲッティ<br>茶 | カロリーメイト<br>すいかorハミウリ<br>スポーツ飲料 | ジフィージ<br>レトルトカレー<br>茶 |

|    |                                                   |  |                      |
|----|---------------------------------------------------|--|----------------------|
| 備考 | 私達はインスタントラーメンを食べていたが、中国側協力隊員の1人は嫌いなので、スパゲッティを食べた。 |  | ジフィーにレトルトカレーをかけて食べた。 |
|----|---------------------------------------------------|--|----------------------|

### <持ち込み食糧>

| 品 目 | ジフィー | インスタントラーメン | スパゲッティ | レトルトカレー | スポーツ飲料 | カロリーメイト | 梅干し   |
|-----|------|------------|--------|---------|--------|---------|-------|
| 数 量 | 130袋 | 180袋       | 20袋    | 180袋    | 270袋   | 180箱    | 1 バック |

(山本 靖朗)

## 会計報告

どの遠征隊でも資金調達にはかなり苦労しているが、今回の遠征もその例外ではない。総費用は1,000万円ほどにも上り、その工面に四苦八苦した。当初、企業からの寄付金を考えていたが、最終的には自己資金を中心として、OB会、大学あるいは大学関係者をはじめとする多くの方々の寄付金を得て賄うことができた。

支出の大半は中国側への契約費であった。度重なる交渉の結果、最初の提示より約15,000USD低い51,686USD（約700万円、内10%は予備費だが、予備日を使用していないの10%分は支払っていない）にはなったが、学生の身分としてはかなりの高額で、これが会計を圧迫させた最大の要因だった。なお中国側への支払いはドル立てで行われた。

国内の準備費用では、装備を多く購入したことから準備費用の8割は装備費に費やすことになった。現地では、上海に滞在中の宿泊、移動（タクシー）、食費ぐらいで、いずれも安く済ませることができた。その他も絵葉書やフィルム郵送費、装備返送費、土産などに使ったぐらいで済んだ。というのは、それ以外での活動費は基本的に中国側に支払った契約費に含まれているからだ。

帰国後は、写真のプリント代、報告書代等にほとんど費やし、巨額の出費はない。

最後に、この遠征のために寄付をしていただいた多くの方々にお礼申し上げます。

### <収入>

|        |           |   |
|--------|-----------|---|
| 隊員負担金  | 7,850,000 | 円 |
| OB会寄付金 | 1,240,000 | 円 |
| 大学助成金  | 500,000   | 円 |
| 教育後援会  | 100,000   | 円 |
| 対外寄付金  | 2,738,000 | 円 |

計 12,428,000 円

<支出>

|             |           |   |
|-------------|-----------|---|
| A. 中国側との契約費 | 6,583,445 | 円 |
| B. 渡航費      | 455,000   | 円 |
| 交通費         | 5,435     | 円 |
| 事前調査・交渉費    | 850,000   | 円 |
| 滞在費         | 11,750    | 円 |
| 装備費         | 890,430   | 円 |
| 食糧費         | 80,000    | 円 |
| 医療費         | 92,865    | 円 |
| 輸送費         | 379,482   | 円 |
| 保険費         | 195,250   | 円 |
| 撮影費         | 37,755    | 円 |
| 雑費          | 141,642   | 円 |
| 報告書発行費      | 250,000   | 円 |

計 3,389,209 円

A + B = 9,972,654 円

<残金>

2,455,654 円

残金は隊員の借金返済と今後の部活動費に当てます。

<対外寄付金内訳>

|                          |           |   |
|--------------------------|-----------|---|
| 植田 正路氏 (学校法人 関西大学理事)     | 500,000   | 円 |
| 柳楽 喜祐氏 (学校法人 関西大学評議員)    | 1,000,000 | 円 |
| 徳山 喜昭氏 (関西大学 校友会副会長)     | 1,000,000 | 円 |
| 関西大学体育会ワンダーフォーゲル部        | 10,000    | 円 |
| 平井 和子氏 (大阪市立大学 生活科学部助教授) | 85,000    | 円 |
| 山口研一郎氏 (うえだ下田部病院)        | 20,000    | 円 |
| アデックス日本経済広告社             | 41,000    | 円 |
| タクラマカン沙漠日中合同学生探検隊        | 10,000    | 円 |
| 柄谷 良基氏                   | 50,000    | 円 |
| 上本 賀英氏                   | 10,000    | 円 |
| 和田 信雄氏                   | 10,000    | 円 |
| 北村 卓也氏 (NHK徳島放送局)        | 2,000     | 円 |

計 2,738,000 円

<支出内訳>

|          |         |   |
|----------|---------|---|
| 91年5月以前  | 875,000 | 円 |
| 事前調査・交渉費 | 850,000 | 円 |
| 予防接種     | 25,000  | 円 |

|            |           |   |
|------------|-----------|---|
| 91年5月      | 1,959,012 | 円 |
| 中国へ送金(20%) | 1,444,862 | 円 |
| カヌー        | 514,150   | 円 |

|                 |           |   |
|-----------------|-----------|---|
| 6月              | 6,311,649 | 円 |
| 中国へ送金(70%)      | 5,138,583 | 円 |
| 食糧              | 80,000    | 円 |
| キャンピング装備        | 357,390   | 円 |
| 健康診断            | 24,265    | 円 |
| エアチケット(大阪〜ウルムチ) | 455,000   | 円 |
| VISA            | 15,000    | 円 |
| 保険              | 195,250   | 円 |
| フロッピー、インクリボン    | 7,910     | 円 |
| 郵送料             | 835       | 円 |
| お土産             | 7,416     | 円 |
| 予防接種            | 30,000    | 円 |

|             |         |   |
|-------------|---------|---|
| 7月          | 298,441 | 円 |
| 荷物輸送料       | 221,707 | 円 |
| キャンピング装備    | 18,890  | 円 |
| お土産         | 2,000   | 円 |
| 手荷物手数料      | 35,625  | 円 |
| タクシー代(上海市内) | 5,435   | 円 |
| 食事代(上海市内)   | 2,675   | 円 |
| 宿泊代(上海市内)   | 9,075   | 円 |
| 国際電話        | 2,330   | 円 |
| 絵葉書         | 904     | 円 |

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 8月  | 8,623 | 円 |
| 切手代 | 6,350 | 円 |

|         |       |   |
|---------|-------|---|
| フィルム郵送代 | 2,273 | 円 |
|---------|-------|---|

|       |         |   |
|-------|---------|---|
| 9月    | 123,885 | 円 |
| 国際電話  | 1,450   | 円 |
| 縄、麻袋  | 285     | 円 |
| お土産   | 16,000  | 円 |
| 荷物返送料 | 106,150 | 円 |

|       |        |   |
|-------|--------|---|
| 10月   | 50,231 | 円 |
| 倉庫代   | 30,000 | 円 |
| フロッピー | 381    | 円 |
| プリント  | 6,250  | 円 |
| 採血料   | 13,600 | 円 |

|          |        |   |
|----------|--------|---|
| 11月      | 20,873 | 円 |
| アルバム     | 3,940  | 円 |
| 双眼鏡返送料   | 720    | 円 |
| プリント     | 8,535  | 円 |
| スライドマウント | 1,030  | 円 |
| フロッピー    | 648    | 円 |
| 運送料不足分   | 16,000 | 円 |

|      |        |   |
|------|--------|---|
| 12月  | 11,540 | 円 |
| プリント | 11,540 | 円 |

|       |        |   |
|-------|--------|---|
| 92年2月 | 13,400 | 円 |
| プリント  | 10,400 | 円 |
| 郵送料   | 3,000  | 円 |

|     |         |   |
|-----|---------|---|
| 3月  | 300,000 | 円 |
| 報告書 | 250,000 | 円 |
| 郵送料 | 50,000  | 円 |

注) レート 1元≡ 25円  
1ドル≡ 140円

(1991年7月上旬)

(佐藤 慈子)